

お米でおにぎり！ 鹿児島幼稚園（鹿児島県鹿児島市）

園庭の一隅のミニ田んぼで、田植えから収穫まで自分たちの手で行うことによって、お米の出来るまでの過程を知り、食べ物の大切さや収穫の喜びを味わった事例

自分たちの手で米を育てることによって、毎日食べている主食の米の出来るまでの過程を知る。収穫した米でおにぎりを作って食することで、収穫の喜びを味わう。

「大きくなってね！」

< 6月 > 梅雨の合間をぬって園庭のミニ田んぼに田植えを行う。初めての田んぼで泥んこ体験に大喜びで、思わず「きゃー」と歓声をあげていた。友達と一緒に同じ体験を全身で味わう楽しさを共感していた。

感覚を共有する・泥を感じる・米の成長への願い、意欲

「早く大きくなあれ」
「泥んこって気持ちいいね」



「大切なお米が・・・」

< 7月 > ・稲の長さを自分の体を使って比べる。

- ・ 棒を立てて印をつける。
- ・ 生長日記をつける。
- ・ 稲の生長する一方で周りの草も伸び放題になっているので「これじゃおいしいお米ができないね」と草とりをする。

[考察] 生長の喜びや親しみを感じ、自分たちの手で守ってあげなければ...とお米を大切に思う気持ちが芽生えたように思えた。

気付く・感じる

< 9月 > 稲が実をつけ始めると害虫やすすめに穂が食べられたり、病気で穂先が黒くなることもあり、みんなで心配して「かわいそう」「どうにかしてあげよう」という発言が聞かれ、いたわりの気持ちも感じられた。それからみんなで話し合い、かかし作りに取り組んだ。各クラスで話し合い、子どもたちの思いの詰まったかかしができた。かかしに「お米を守ってね」と声をかける姿もみられた。

アイデアを出し工夫する・挑戦

「米作りの大変さを味わう子どもたち」

< 10月 > 田植えをしたらすぐにお米ができて、食べられると思っていた子どもたちは稲刈りの日を心待ちにし、「やっとお米がとれるね！」とはじめる前から大喜びで行う。園では、はさみを使って稲刈りをする。「お米ができたね～！うれしいね」と一人ひとりが収穫の喜びを感じている。

稲刈り後、「食べよう」と楽しみにしていた子どもたちだったが、そのままでは食べられないことを知り、お米ができるまでの過程の大変さをあらためて感じる。

「みんなでおにぎりパーティーだ！」

< 11月 > 収穫を終えたお米を乾燥 脱穀 もみすり 精米

- ・ 精米したお米で自分たちの手でおにぎりを作っておにぎりパーティーをする。
- ・ お米のできる過程を振り返ったり、紙芝居やクイズ、歌や踊りをしたりして収穫の喜びやお米の生長を喜び合う。

[考察] 自分たちで作ったおにぎりを一粒一粒おいしそうに食べようという気持ちが伝わってきた。自分で作ったおにぎりの味は格別のようなだった。

長期にわたり、これまで気づかなかったことに気づき、考え、喜びを分かち合いながらお米作りに取り組んできたことが、食べ物の大切さや命の大切さを深く感じるよい機会となった。収穫する喜びや満足感も十分に味わうことができた。

大収穫!



「かかしさん、お米を守ってね」

「ぎゅぎゅっとにぎろう」
「ぼくシャケおにぎり！」



「おいしい～！」
「お米ってあまいね～」

みどころ

お米作りは、長期にわたり自然に積極的にかかわれる活動です。他の栽培とは違い、「田んぼ」「稲」「稲刈り」「かかし」などという特有の言葉を使うことも生活の中で自然に行われ、幼児にとって身近で食育につながる栽培活動になります。「お米でおにぎりを作る」というイメージをもてる5歳児ですが、こうして作業の大変さを感じながらお米を作り精米することで、お米一粒一粒をおいしそうに味わって食べるという気持ちが引き出され、食べ物の大切さや命の大切さを深く感じる体験をすることができました。